

令和8年度生駒市男女共同参画審議会(第1回)

- 1 開催日時 : 令和8年6月24日(水) 午後3時00分から午後4時00分まで
- 2 開催場所 : 生駒市コミュニティセンター 4階401 会議室
- 3 出席者 : (委員) 田間委員、田辺委員、宮寄委員、芝口委員
(事務局) 井上総務部長、後藤人権施策課長
ダイバーシティ推進プラザ 福山所長、清瀬、児玉、真銅
(傍聴者) 2名

- 4 欠席者 : (委員) 中田委員、橋本委員、山口委員

5 議事内容

- (1) 生駒市男女共同参画行動計画(第4次)について
- (2) 生駒市の男女共同参画の取組について
- (3) その他

6 議事内容

- (事務局) 【事務局職員紹介及び辞令交付】

井上総務部長から委員へ辞令交付、開会あいさつ

- (委員) 【会長及び副会長の選出】

会長に田間委員、副会長に田辺委員を選出

- (事務局) 【会議の成立報告】

本日の会議の成立について報告する。出席者は4名である。生駒市男女共同参画推進条例施行規則第12条第2項により、本審議会は委員の過半数出席をもって成立している。本日の会議は原則公開である。今後の会議については、同施行規則第12条第1項、審議会の会議は会長が議長となるとの規定により、会長が議長を務める。本日の傍聴希望者は2名である。

- (会長) 会議の公開と議事録の公開について、市の方針は原則公開であると認識している。皆さまよろしいか。

【異議なし、傍聴人入室】

- (会長) 次に会議次第に従い議事を進める。

まず、ダイバーシティ推進プラザの概要等の説明をお願いする。

- (事務局) 【資料 1 ダイバーシティ推進プラザの概要説明 及び
資料 2 ダイバーシティ推進プラン前期実施計画について併せて説明】
- (委員) 資料 1 のダイバーシティ推進プラザの概要 2 ページ目、ダイバーシティ推進プラザの体制について、令和 8 年度4月からは専従人数が 2 名から 1 名に減少している。
その理由は。
- (事務局) 人事異動による変更である。昨年度に比べてフルタイムの正職員が 1 名減となっている。会計年度などの職員で、勤務日数の少ないものは人数に含まれていない。昨年度まではコミュニティセンター(以下「コミセン」という。)の管理業務などもダイバーシティ推進プラザの業務内容に含まれていたが、令和 8 年 4 月からコミセン管理業務は指定管理者に委託されたため、職員が 1 名外れた。
コミセン管理業務のボリュームが大きかったため、専従職員は 1 名減となっているが、昨年度と比較すると業務量は軽減され、男女共同参画に関する業務には大きな影響はない。
- (委員) 前年度まではコミセン貸館業務のためにいろんな人がダイバーシティ推進プラザに出入りしており、ダイバーシティ推進プラザにとって直接広く市民と交流できる機会であったと考える。
これからは、ダイバーシティ推進プラザの情報コーナーやイベントに訪れる人については、もともと興味がある人だけになると考える。そのため、コミセンに来る定住人口がどのような人なのか、関係人口がどのような層なのかを分析した方がよいと考える。現在すでにダイバーシティ推進プラザに興味をお持ちで、具体的に課題をお持ちのような方を大切にして、そこから広げていく方法を検討してほしい。適切にそういった層へ伝えていくための集客戦略を持つべき。
どんな層の方が情報コーナーに図書を借りに来ているのか、ダイバーシティ推進プラザのメーリングリストに登録している方はどんな方なのか、男女別や年齢層はどういった方なのか等は把握しているか。
- (事務局) 統計的には把握していないため、今後確認していきたい。
- (会長) ダイバーシティ推進プラザのイベントに来るだけでなく、この建物に来ている人を分析し、アプローチを考えるべきである。いままで、コミセン貸館の申込で来られていた方がどんな方か肌感で分かっていたが、ダイバーシティ推進プラザの業務からコミセンの貸館がなくなり、今後はどうなるかということである。
- (事務局) 事業については、イコマドや商工会議所と連携して進める。現状では、同じビルにあって、それぞれ業務を行っており、交わる機会がないため、積極的に働きかけていきたいと考

える。

パープルリボンキャンペーンなどでは、同ビル 3 階のこども政策課等と連携する予定である。

(会長) 集客が難しい中で成功しているイベント等もあり、その成功に対する分析も進めてほしい。前年度の実績についてほかに意見はあるか。
ないようであれば資料 2 について、ご意見やお気づきの点はいかがか。

(委員) どのようにしたら生駒市の男女共同参画のプレゼンスを高められるかずっと考えている。私も今年度 7 月にダイバーシティ推進プラザ主催のワークライフバランスのセミナーを講師として開講する。本講座については、積極的に市役所職員に周知してほしい。ダイバーシティ推進プラザの講座参加を他課へ一方的に促すだけではなく、他課の取り組みも応援して Win-Win の関係を築いていきたいと考えている。
本講座は就労者を対象としており、土曜の朝は難しいため、昼休み時間に Zoom にて短時間で実施する。対面ではなく、そういった新しい方法もあることを他課にも知らせてほしい。
ぜひ総務部全体で PR にご協力いただきたい。

(会長) 宮寄委員の講座も含めて令和 8 年度の事業の一覧についてご説明いただきたい。

(事務局) 【資料 4 令和 8 年度ダイバーシティ推進プラザ主催事業について説明】

(会長) 研修は大切である。出前事業も重点項目に関連するため、頑張ってもらいたい。資料を見る限り、市役所の全庁的に広い範囲で頑張っている。
順番が前後してしまったが、次は資料 3 の説明をお願いする。

(事務局) 【資料 3 男女共同参画行動計画(第 4 次)計画がめざす指標について説明】
(資料 3 補足説明)

資料 3 については男女共同参画行動計画が目指す指標について、前回の指標は令和 5 年度のアンケート調査から得られた数値である。次回の指標のアンケート調査は令和 15 年度に実施する。次回調査までの期間が長いので、重要な質問だけ今年度も時点調査を行う予定である。

具体的には今年度実施される市民実感度調査に質問項目を追加する予定で、I-1 の 2 項目および III-7 のうち「ドメスティック・バイオレンスの相談窓口を知っている人の割合」を調査項目に含める。

また、こどもの意見としてこども政策課がこども計画で規定しているアンケートにも男女共同参画行動計画と同じ質問項目を入れることを検討している。具体的には I-2 の 2 項目

および III-7 のうち『恋人同士の関係で、「体をさわるなど相手が嫌がることをする」ことを変だと思わない』を調査項目に含めること、ご了承いただきたい。

(会長) 計 6 項目を他課のアンケート調査に載せたいということである。
ご意見のある方はいらっしゃるか。

(委員) 把握値と目標値の乖離が生じている項目を選定するのは妥当である。
数値はどのくらいになりそうか。最終的な目標値に向けて、毎年少しずつ上がるのか、一気に上がるのか、その経緯も振り返って見ていきたい。

(事務局) 質問項目の意図がしっかり伝わるかどうかの不安や、場合によってはさらに数値が下がるという想定もあるが、少しずつでも上がっていけばよいと思う。

(会長) 「男女共同参画」という名がついたらアンケートに答えないという層もいる中で、調査対象群として異なる人に聞ける良い機会である。数値の出方が異なるので比較対象にはならないが、参考値としてよい。
ほかに何かご意見はあるか。

(副会長) 男女共同参画行動計画の指標の参考値としてアンケートを実施するということか。

(事務局) 現時点での把握値は、前回、男女共同参画行動計画を立てる際に市民より得た値である。
しかし、計画再策定のために行う同内容の調査は令和 15 年度まで実施できないため、それまでに他の調査に入れる方針である。
なお、前回の調査は、計画策定時に人権施策課と男女共同参画プラザ(現ダイバーシティ推進プラザ)が実施したものである。

(副会長) 他課へのアンケート調査には毎年同質問を追加していくのか。
同じ対象に同じ文言のアンケートを実施しなければ、数値として比較できない。
また、今回他のアンケートに入れて出す参考値も定期的に取得しておかないと、推移は参考にならないのではないか。

(事務局) 市民実感度調査は男女共同参画行動計画の調査と対象が似ているため、実施を検討している。

(会長) 参考値の調査も継続的に同じ質問を行い、新しい計画に向けて参考とするということで間違いはないか。

(事務局) お見込みのとおりである。

(委員) 前回、男女共同参画行動計画を立てる際のアンケートは、どの対象に、こういった媒体でとったのか。

(事務局) 郵送で、紙での回答と QR コードを通してのウェブでの回答を併用した。ウェブでの回答率は思ったほど伸びなかった。年齢の若い方からはあまり回答がなかった。
無作為抽出の市民 3,000 名にアンケートを郵送し、900 名程度の回答を得た。

(会長) ランダムサンプリングでしか調査できないという状況の中、QR コードは他の自治体でも導入されているが、それほど回答率は上がらないと聞く。標本抽出には一定の数が必要なため、回収率が上がらないと統計資料としては誤差が広がる。他自治体でも回答率が 25% を下回ったという話も聞く。

(事務局) 中学生はタブレットで周知し、回答は自ら行う。

(委員) 回答するかどうかを自由にしてしまうと、自分が学生なら回答しないと思われる。時間がな
いし、手間に感じるため、気づいたら期限が切れているのではないか。学校との協力関係
も必要ではあるが、ホームルームなどで時間をとって回答を促す方がよいのではないか。

(事務局) 協力を得たいところだが、難しい。

(会長) 時間と機会を強制的に設けた場合、回答率は上がるが、周囲の目があり自由な回答がしに
くなくなったり、回答しない自由が脅かされたりと難しい点もある。
次のアンケートに向けて、審議会で出た意見を生かして工夫してほしい。
ではこれで審議を終了する。事務局に進行を戻す。

(事務局) 令和 8 年度第 2 回の審議会は 2 月ごろを予定している。
後日、日程調整等の連絡をさせていただく。
以上をもって審議会を終了とする。